

平成16年度学校経営計画表

1 学校の現状

学校番号	35	学校名	茨城県立海洋高等学校				課程	全日制				学校長名	武藤 祥二郎			
教頭名	江寺 昌三								事務(室)長名				伊東 弘			
教職員数	教諭	33	養護教諭	1	常勤講師	7	非常勤講師	5	実習教諭, 実習講師, 実習助手	12	事務職員	4	技術職員等	30	計	92
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	海洋技術科		24	0	23	0	25	1			72	1	3			
	海洋情報科		25	0	20	2	26	0			71	2	3			
	海洋食品科		21	20	19	6	19	6			59	32	3			
	海洋工学科		31	0	27	0	26	0			84	0	3			
	専攻科遠洋漁業科		4	0	3	0					7	0	2			
専攻科機関科		6	0	6	0					12	0	2				

2 目指す学校像

教育基本法及び本県教育の目標の示すところにより、県下唯一の海洋に関する学科であることを生かした体験的学習を重視して、豊かな人間性と人格の完成を目指し、社会の発展に貢献し得る、心身共に健全な海洋技術者を育成する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
教科指導	目的意識を持って学習活動をする生徒がいる反面、学習習慣が身に付いていない生徒が多少見受けられる。	自己教育力をいかに育成するか。
生徒指導	ボランティア活動などに意欲的に取り組む生徒もいるが、基本的生活習慣の確立が必要な生徒もまま見受けられる。	日頃の指導でいかに基本的生活習慣を確立させるか。
進路指導	明確な将来像を持った生徒が多い中、進路を主体的に選択する能力が身に付いていない生徒がまま見受けられる。	望ましい勤労観・職業観を身に付けさせるにはどのようにしたらよいか。
特別活動	多彩な部活動に打ち込む生徒が多い反面、集団生活の意義を見いだせない生徒が多少見受けられる。	より多くの生徒の参加による部活動や自立的な集団活動を行わせるにはどうすべきか。
国際理解教育	レレア高校との交流会を円滑に進め、交流会のあり方も発展させる必要がある。	生徒自身が自発的に交流会を企画し、実践をいかに行うことができるか。

4 中期的目標

- 1 水産業並びに海洋開発に従事するスペシャリストを養成するための教育課程の編成を工夫し，生徒が意欲的に学習するための学習環境を整える。
- 2 道德教育のあり方を実践的に研究し，生徒の規範意識や社会性の育成を図る。
- 3 大学進学希望や就職希望など，生徒の多様な進路希望に応じ，個人面接や進路ガイダンスなどを行い，きめ細かな進路指導の充実を図る。
- 4 集団生活を通して，生き生きした人間関係を維持し，文化祭やクラスマッチなどを生徒自らが計画・実行できるよう学校行事の内容の充実を図る。

5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
1年次	生徒の実態にあわせた学習指導の実施	数学，地理でTT（ティームティーチング）を実施すると共に，各教科で評価規準を明確にし，きめ細かな指導を行う。	
	基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせる	家庭との連絡を密にして，欠席や遅刻，早退を少なくする。また，ボランティア活動を通して他人への思いやりを養う。	
	将来を見越した計画的な進路指導を行う	個人面接や進路ガイダンスの充実を図る。	
	生徒が生き生きと参加する特別活動の計画	生徒の自主性を尊重した学校行事の企画・運営と多くの生徒が参加する部活動の活性化。	
2年次	生徒の興味関心を喚起する，教育課程の編成	個々の生徒の実態に応じたTTなどを行い，体験的な学習や課題研究など問題解決的な学習を行う。	
	個性を尊重しながら豊かな人間性を育てる。	道德教育活動を推進し，ボランティア活動やHR単位での活動を通して社会性や規範意識を身に付ける。	
	将来の進路を具体的に選択し，自ら取り組む姿勢を育む。	個別面接や進路ガイダンスを重ね，進路に対する意識を高め，「進路指導の手引き」を通し自らの進路を選択させる。	
	好ましい人間関係や自己指導能力を身に付ける。	日常生活の中で，教師と生徒，生徒同士の好ましい人間関係がつけられるHR活動を行う。	
3年次	進路希望に合わせた学習指導体制の確立	選択科目を取り入れ，進路希望に応じて学習できる体制を確立する。	
	豊かな人間性を備え，社会に目を向けた自律した生徒の育成	ボランティア活動やインターンシップ等の社会体験活動を通し，社会の一員としての自覚を持たせる。	
	主体的な職業選択能力を備え，望ましい勤労観・職業観を持たせる。	個人面接，三者面談を行い，各種の資料を利用し，主体的な進路選択を行えるようにする。	
	人間としての在り方生き方について，意識の明確化を図る。	部活動や社会体験活動などの異年齢集団での活動を通して，人との関わり方や社会性を身に付けさせる。	